

# 藤井寺市発掘調査概報 第10号

2012年10月  
藤井寺市教育委員会

## ボケ山古墳（NKK2012－1区）

### 位置と環境

調査区は、羽曳野丘陵から派生する下位段丘上で、ボケ山古墳の南東の堤部分にある。

ボケ山古墳は墳丘長 122 m を測る前方後円墳で、6世紀前半の築造時期が考えられている。同古墳の堤部分については、これまでにも発掘調査が実施されている。特に大阪府教育委員会が 1978 年と 1979 年に実施した調査では、堤上に樹立された円筒埴輪の原位置を保ったものが確認され、大きな成果をあげている（大阪府教育委員会 1979）。

今回の調査は、堤の確認とともに堤上の円筒埴輪列の確認を主な目的として実施した。

### 調査の経過及び成果

宅地造成に伴う文化財保護法第 93 条第 1 項の届出が提出されたため、申請者の依頼を受けて、道路新設部分に A～C の 3 つのトレンチを設定した。調査面積は、58m<sup>2</sup>である。

調査区の現状は、ボケ山古墳の周濠と上田池にはさまれるような位置にある。近年の造成により、もとの状態からは改変されている。このため、3 つのトレンチとも 1～1.2 m 程度の現代の盛土に覆われている。同層を除去すると、A トレンチ及び B トレンチでは旧耕土が、C トレンチでは黄灰色細砂が認められる。それらの下に堤を構成する造成土があらわれる。これは、A トレンチでは黄灰色細砂、B トレンチでは黄灰色細砂と粒の細かい灰色細砂、C トレンチでは粒の細かい灰色細砂を呈する。B トレンチの土層断面の観察によると、粒の細かい灰色細砂による造成の後に黄灰色細砂により造成されたことがわかる。

黄灰色細砂と粒の細かい灰色細砂による堤の造成時期の詳細は不明であるが、古墳時代よりも後の時期のものであると考えられる。円筒埴輪列は確認されていない。この堤の幅の現状は最大で 13 m 程度であることが今回の調査で確認できた。

### 小結

今回の調査では、古墳築造後も連絡と堤の維持が行われていた状況が認められた。古墳が築かれた後の維持管理方法についての考察は、今後の課題である。

### 《参考文献》

大阪府教育委員会 1979 「羽曳野市仁賢陵古墳外堤及び野々上遺跡試掘調査報告」『節・香・仙』第 28 号

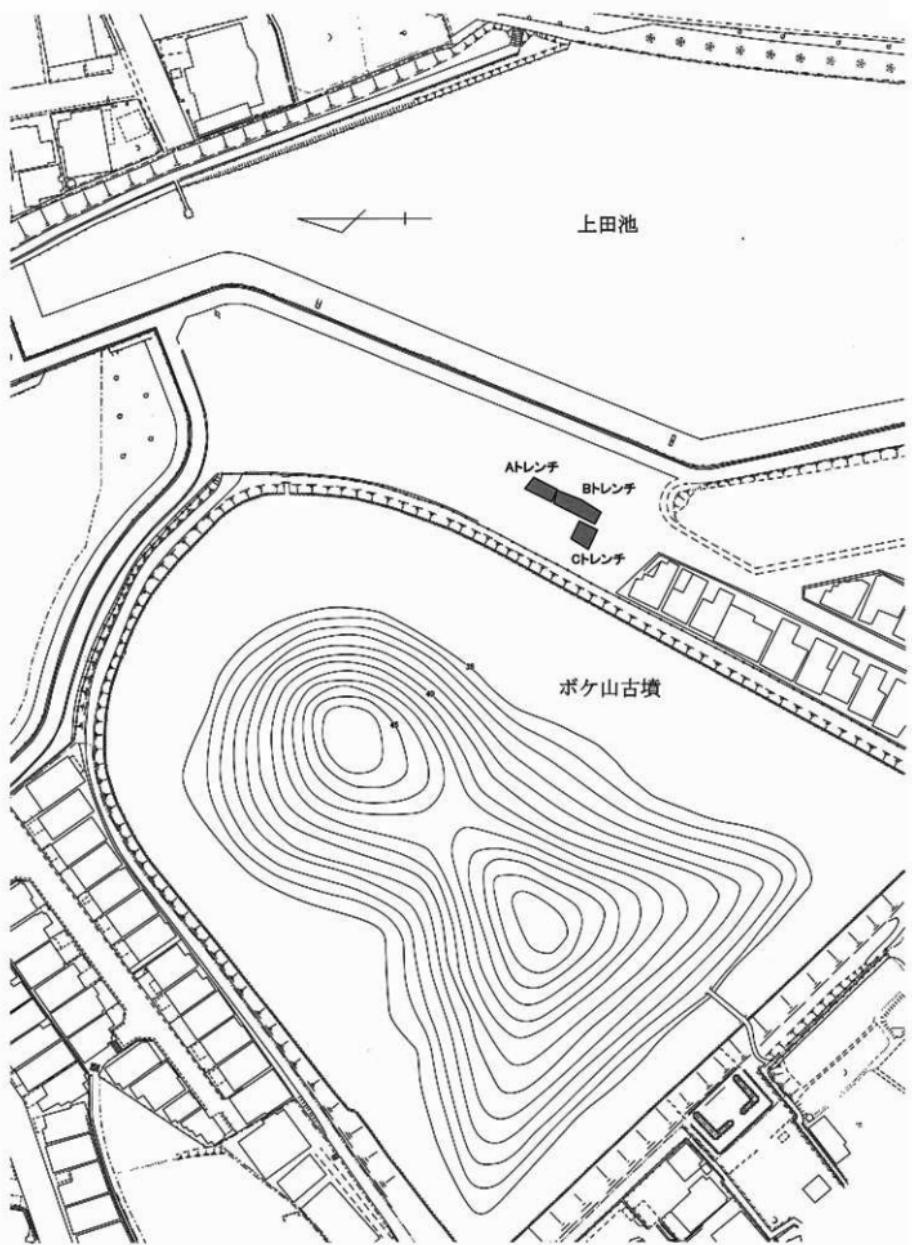


図1 トレンチ位置図 (S=1 : 1,000)

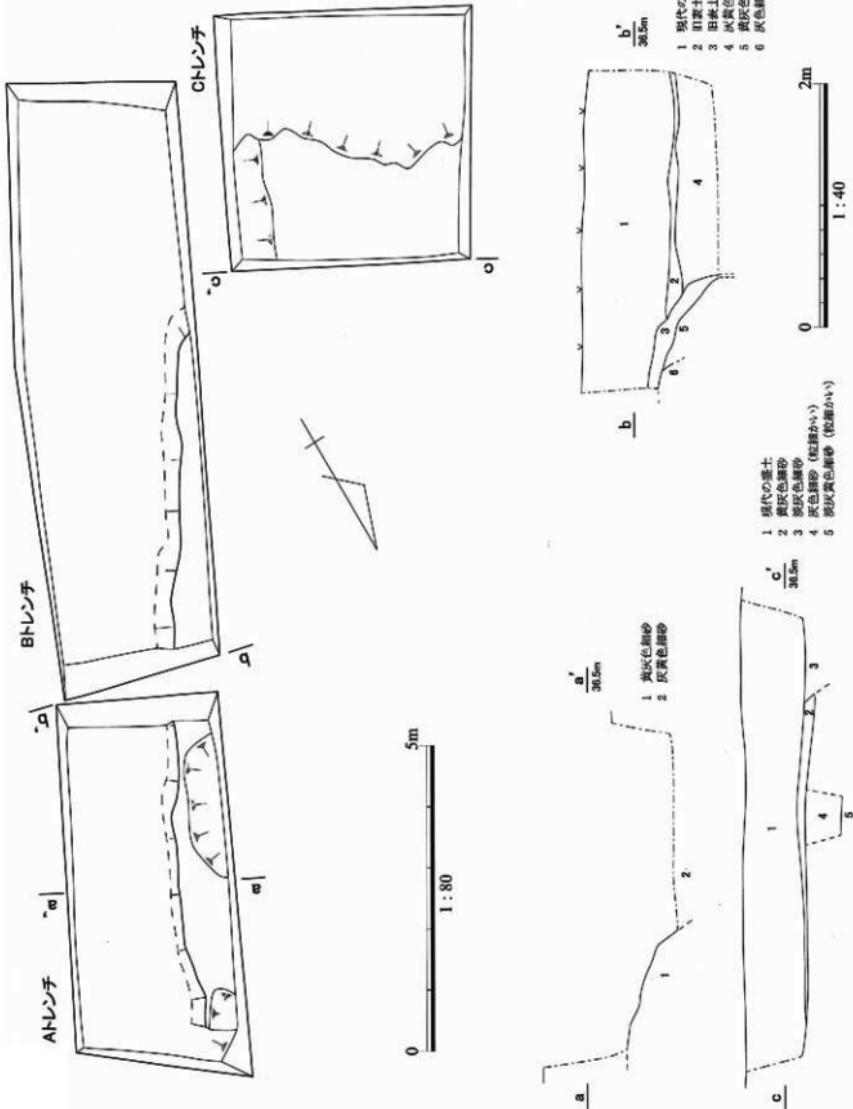


図2 遺構・断面図



ボケ山古墳（南より）



A トレンチ（北東より）



B トレンチ（南東より）



C トレンチ（東より）

### 例 言

- 本書は、宅地造成に伴い2012年度に実施した、ボケ山古墳(NKK2012-1区)発掘調査の概要報告書である。調査地は、藤井寺市青山3丁目621、622-1、624-2、1076、1077-2 地先水路 堤敷きに所在する。
- 調査は、申請者の依頼を受け、藤井寺市教育委員会事務局教育部文化財保護課が実施した。期間は、現地調査（外業）2012年4月16～18日、整理作業（内業）2012年5月11～17日である。
- 調査及び本書の作成は、新聞義夫、深尾まさ子、野口尚久、寺崎理恵が行った。遺構写真の撮影は新聞が行った。
- 図面の方針は、特に断りのない限り座標北を使用した。標高はT.P.を用いた。

### 報告書抄録

ふりがな	ボケやまこふん
書名	ボケ山古墳
調査名	NKK2012-1区
シリーズ名	藤井寺市発掘調査概報
シリーズ番号	第10号
編著者名	新聞義夫
編集機関	藤井寺市教育委員会
所在地	〒583-8583 大阪府藤井寺市岡1丁目1番1号 Tel. 072-939-1111 (代)
発行年月日	西暦2012年10月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査面積 m <sup>2</sup>	調査機関	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ボケやまこふん ボケ山古墳	大阪府 藤井寺市 青山	27226		48	34° 33' 22"	136° 36' 50"	58	現地調査(外業) 2012年4月16～ 18日 (内業) 2012年5月12～ 17日 宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
ボケ山古墳	古墳	古墳～現代	堤	埴輪片				